

広島県鉄構工業会

鉄骨製作部会開く

広工大で研究成果発表

広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・スアレントス社長）は30日、広島市内の広島工業大学広島校舎で「2018年度第2回鉄骨製作部会」を開催、フ



会場の様子

アプリケーターを中心に約20人が参加した。同工業会は中国地区の大学や日本建築学会中国支部と連携し「鉄骨製作部会」を設け、鉄骨の強度やレーザ穴開けなどの実験会や研究、データ収集を実施するなど、現場で

の作業性向上を目指した活動を行っている。今回は最初に、清水齊・広工大工学部建築工学科教授が「溶融亜鉛めっき高力ボルト接合の孔径に関する研究」の実験手順と結果、研究の背景についての説明を行った。高力ボルトの穴は建築基準法でボルト径プラス2ミリ以下と定められているが、腐食防止に効果のある溶融亜鉛めっき高力ボルトの場合は穴にめっきが付着し、挿入できないことがある。実験によりボルト穴はプラス2〜3ミリでも、接合面のすべりにくさを表す値である「すべり係数」は全て0.5以上で、条件を満たすことが確認されている。現在は大臣認定の取得により母材の孔径のみ拡大することができ、側材について

は認められておらず、工業会としては改善に向けた取り組みを行う。引き続き、「開先防錆剤を塗布した完全溶け込み溶接におけるプロ

「ホール」の発生状況に関する研究」でも、実験方法や結果の説明などが行われた。参加者は熱心に聴講していた。